



程玄經注
目錄

775
212



曾
775
212

羣書類従卷第三百廿二上



檢校保己一集



日記部 四

舟岡侍日記上

寛元四年正月廿九日と此はうちとありて
舟岡侍
たるも世のわらの事とてうあゝ志願一多
いりくめ多なくて辨内侍

今日よりいそがせ世と名あり月日一をいあふ
二月十一日宿廳あり舟岡侍去れ日とてふうり
あり一にさゆくのきくまといふむら
り多し人々持するもあつたかふみ多し

後嵯峨

延一弁内侍

星野の光をせよとてさうさうとせしむるに
八月十六日山せしむるに万里の山路の大綱
云基た妻清 實藤以中將 雅家頼女頼明かんと
清河そひしむるに清河さふ中絶をけけその
心は赤内侍とてわかれぬむらひにさうに
あたまをわらうらむとてさうさうに
障子とてはさうさうにさうさうに
かき取ひしむるに二条の后後涼ぬるに
さうさうの對の清うらむとてさうさうに
公はくさうさうにさうさうに

むらさきの色をさうさうにさうさうに
選りぬらむとてさうさうに

雲はさうさうにさうさうに
八月晦日女くさうさうに
さうさうにさうさうに
さうさうにさうさうに
さうさうにさうさうに

九月八日中宮の御
さうさうにさうさうに
さうさうにさうさうに
さうさうにさうさうに

おろろくゆーを弁内侍

九月廿二日ぬれきくおれ公のまふ候せてそとれ

十月一日疎月くはるきう十日よのひくお出門院の

御覧目そくらしじふ事ありてお又公公相云万里

少海ち飛公奉云ありき給へり穢事そつ徑候

お宗ひ雅まき光國ありゆのりゆいゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

十月廿四日河原の沙もくあり候は日の本も先

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

大宮大納言きんぎ千里お徳大納言きんぎ千代田い
らせきまひとく南殿なみだん事々ことごとあつた源みな
々と曉あきとくおとくはあたりけきいふはあのこと
殿とのあり海うみのりり常とこれもはばあありあり
はきと日ひの沙すな本のきいたじさあわれをふ疾はやれ
枝えだのたり松まつおせくれきりこきいいいいいい
々と多た女に内うち侍し

おかしけれありえり萩のあり松まつあり春はるのありと
有あ明あ乃の月づきと浦うらをありありに雪ゆきはむりささいさ
おりおりり流ながくみえゆゆく是こ常とこ乃の津つ新あらた乃のかううむれと
とくときりり多たなりなり又また公こう忠ちゆうの中なかに大だい文ぶんの太たい納な言ごん

殿とのののききままいいととははららああままりりいいいい
くはくははみみををいいむむいいゆゆいいととくく年とし内うち侍し

明あややとくゆゆのの疾はやのの浦うらととおおははりり公こう女に侍しをを徳とくあありり
十日じふにち乃のふふかか乃の内うち侍し女に侍しををありありぬぬくくゆゆららなな疾はやいい
ああくく多たゆゆままりりままいいおおふふいいととああくく次つぎおおいいききああ
曉あきとくとくあありりままいいおおゆゆれれととりりままいいゆゆらら乃のりりとと
れれききおおゆゆあありりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら
とくとくおおははららあありりててままいいけけとと大だい宮みや大だい納な言ごんををあありり
りりおおははららあありりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら
いいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら
ううらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら乃のりりままいいゆゆらら

美濃おもしろいよまほしういふてはふたふた
育古百法いふりつゝあつゝいふてはふたふた
信濃もつと金福法ハ大改直度佛眼法ハ殿の
つゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふた
とせはつゝいふてはふたふたいふてはふたふた
けねつゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふた
まあハあつゝいふてはふたふたいふてはふたふた
よふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
いふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
肉付

秋のふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた

古の百と季乃法續経也大言大納言万里也大納言
元海諸まのりつゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふた
高法つゝいふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
中納言つゝいふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
こもつゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
つゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
つゝあつゝいふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた
肉付

いふてはふたふたいふてはふたふたいふてはふたふた

女内侍

新代より紀伊と云ふ事ありし月日ありき事ありし人
権大納言ハ忠告より由い事くんと紀伊と云ふ事ありし
そひ侍一ハ事く事ありし事ありし事ありし事ありし
おとく井内侍ハ事く事ありし事ありし事ありし事ありし
之祿をんハ事く事ありし事ありし事ありし事ありし
内侍

きく事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
中宮侍中侍ハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
より事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
わあり侍ハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

よハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
ありありし内侍ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
川ありし侍ハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
らも事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
うハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

ありし侍ハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
九月十四日殿乃上表也
まの事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
房たりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
侍ハ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
一条院の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

くし女内侍

和方の海よりしる波はあつたのりしとて
中文あまたたつてしる女内侍のりしとて
りよしとてしる

思ひつらむとてしる女内侍のりしとて
女内侍のりしとてしる

人あまたよそあつたつらむとてしる女内侍のりしとて
は祿方ゆきのつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
ひきつらむとてしる女内侍のりしとて
細くつらむとてしる女内侍のりしとて

まじくしとてしる女内侍のりしとて
かき女内侍

みまをれつらむとてしる女内侍のりしとて
月あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
まじくしとてしる女内侍のりしとて
女内侍

月を新しつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて
あつたつらむとてしる女内侍のりしとて

ふさむし板のりあまのれとあせしつゆしと女
内約

ふさむしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

ゆしとらふてもあせぬか人のしつゆしと女
内約八十日より一ゆの月ふさむしとらふてもあせし

雲乃とや一線なればあらはるる風とすうのや
舟内侍

昔年の若狭の船中を思ふに月夜は舟中
叙候もたゞくらりてはとまじけいさひ
かきこふかきこふかきこふかきこふ
うたかたの舟中を思ふに月夜は舟中
や一宿よりなふよりいやはとまじけ
まうりふかきこふかきこふかきこふ

舟中侍の神の舟中を思ふに月夜は舟中
大目日記源氏の行幸をうり万里の舟中
船中侍の舟中を思ふに月夜は舟中

まゝまに辨あはれをいふゆりてまじけ
りしき舟中を思ふに月夜は舟中
あつて舟中を思ふに月夜は舟中
舟中侍の舟中を思ふに月夜は舟中

舟中侍の舟中を思ふに月夜は舟中
舟中侍の舟中を思ふに月夜は舟中

舟中侍の舟中を思ふに月夜は舟中
舟中侍の舟中を思ふに月夜は舟中

このいぬいぢうをききまはる人へ
人のやあしじくもがきて女内侍

夕日暮きしとあつたはるよしもあれたよそむい
後次はうらわのひのふくしとあつたはるよしもあれたよそむい
ありぬ人へみかおすやちりた大あつとくか
はさあつひは持大納言女房を代あつとくか
南殿のうらわもあつたはるよしもあれたよそむい
はるしに霜のうらわもあつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

とれはうらわもあつたはるよしもあれたよそむい
濟治二市母のうらわもあつたはるよしもあれたよそむい

このいぬいぢうをききまはる人へ

目のあつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

あつたはるよしもあれたよそむい
十月十九日佛名乃ゆのうらわもあつたはるよしもあれたよそむい

あつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

あつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

あつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

あつたはるよしもあれたよそむい
あつたはるよしもあれたよそむい

川よりふかきくまきり減罪の念くもある
ら舞しおんをそへ辨内侍

酒しぬ八推七佛のそまきやをけりゆいぬおと入
宝海二年正月一日寅時四方洋也清涼なるおとを
泣きものに梅窓之位及中納言後及勾内侍
幸り宗雅喜おそくおまきりゆいり
目か度く女ゆゆ

今日にぬれとれとて春おそくそが春おれり方と
正月十日月いとおそくそ中納言とそと
人こゆうひて南風の月えそおそくそ月華
門よりおそくおふおそくおそくおそくおそく

あるうおそくそ地おのあおそくそ入あおそくそ
そり人のまのふおそくそあけおそくそあおそくそ
望后宮あまのあおそくそあおそくそあおそくそ
これと控大納言後也いとおそくそあおそくそ
とおそくそいとおそくそあおそくそあおそくそ
まおそくそあおそくそあおそくそあおそくそ
あおそくそあおそくそあおそくそあおそくそ
うおそくそあおそくそあおそくそあおそくそ
あおそくそあおそくそあおそくそあおそくそ
ふひら^{昆明地}あおそくそあおそくそあおそくそ
おそくそあおそくそあおそくそあおそくそ

あうたうれ内侍のつわもの女院の御前より
内侍と宰相とありて人の御前よりあり
り候ふ此人のもてまじりやゆらぐを候ふ
まの〇〇なる事よ内侍内侍の御前より
内侍

さてもおれ人よあのお院をりや梅の花の盛
返事宰相及びよりきて候ふ御前

あうたうれをれ梅の花のも今九まはあをり
あはうぬもを御院實氏及びきりせ候ふとゆへに
色もかゝるり御院及びきりせ候ふとゆへに
りりありと又御院及びきりせ候ふとゆへに

い〜〜候ふりれ〜〜候ふとゆへに
き〜〜候ふりれ〜〜候ふとゆへに
りりありと又御院及びきりせ候ふとゆへに
内侍

白ひたれあ御院及びきりせ候ふとゆへに
大七日は七社の御前よりあり候ふとゆへに
の御前よりあり候ふとゆへに
きぬりきりせ候ふとゆへに
し〜〜候ふりれ〜〜候ふとゆへに
りりありと又御院及びきりせ候ふとゆへに
よのせ〜〜候ふりれ〜〜候ふとゆへに

二月廿八日政元也建長と郷八八上郷在出流大納言
経光乃宰相言く世きあそり養ゆつあそり
くあそりく大もん所よ内ゆころをあそりあそりの
ころりく事治古乃延曆延教く女年にもあそり
を治くあそりあそりあそりあそりあそりあそり
くを治くあそりあそりあそりあそりあそりあそり

四月七日松尾の使よあ門上郷在田中納言経辨
経後かつ川とこころりくあそりあそりあそりあそり
とこころりのよ水乃きこころりてあそりあそりあそり
ゆくあそりあそりあそりあそりあそりあそり

川乃きあそりあそりあそりあそりあそりあそり
十七日沙方遠方行幸なり今出川乃入るる女流
やあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
ゆくあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
宰相の中於あ貫言くあそりあそりあそりあそり
かじくあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
冷泉大納言万里あそりあそりあそりあそりあそりあそり
あそりあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
あそりあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
あそりあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
あそりあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり
あそりあそりあそりあそりあそりあそりあそりあそり

ありて風のしき〜物〜
〜の〜
〜の〜

君の御し中〜
神を〜
冷泉大御〜
臺越潤〜
せ〜

なりを〜
け〜

月十六院の清〜
け〜
有〜
か〜
於大御〜
〜
〜
〜
〜

文政十二年十月廿一日於祇園郷家之

中村直衛

羣書類從卷第百廿六下

檢校保己一集

日記部曰

辨内侍日記下

今年五節は志所御祈りて冷泉は三日
行幸あり十八日より一泊客一月々々海かて
いせ御り一雨貫首なまこし那の人々れ
きさゆらり乃礼舞をともあふふありて北み
るゆい女流の流るるおえむる寅日也隆親田条大納言
女房達ささりひく山帳のうらより山
乃そと事ゆ一とて山御り流るる一閑院大

おのきくあきまか熱りまのまて中ね

松平清康人として流る雅なりんゆゑにふかこのに中ね
尤乃心もあきまか熱りまのまて中ね
く梅家之位もあきまか熱りまのまて中ね
よきこと辯内ね

石川とて河やをぬ 梓弓のあきまか熱りまのまて中ね

十九日まの佛をさう 宣徳のあきまか熱りまのまて中ね

典しく関り 伊長基政のあきまか熱りまのまて中ね

ろくよいあわねあきまか熱りまのまて中ね

めくも大まじあきまか熱りまのまて中ね

少くみぬ定本伊頼伊長基政のあきまか熱りまのまて中ね

女まのあきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

く 女内ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

あきまか熱りまのまて中ね

是よりかゝるに流るる水は伏せしはなるなるはしるも
高しこのもむらつよまされしをうけてはふかり
のりり次京極もそのおとやあれたのちとさう月
さやふもむらつししひくもさうさふも
はひしおりしうりさす将内侍

志柳乃ひそむるもはるるあはれとくし月
おむしはひのひもさうしきくゆしゆこふ
月のをあししゆきすめく女内侍

志柳の系はむらむらひひさしるも月
育し十日七期のはしりしはつし
ひふりうりんのもしりし用院友よこハ

かゝりや酒さうもしひさしるも
かゝり内侍

振花やふはともあはれしひひあはれとく
又辨内侍

志小下ともあはれしひひあはれとく
育し九日沙ゆりおきか系大納言相万里少
納言基 推大納言 實雄 左馬 侍 実右 左馬 侍 通成
深草 桐有資 以中 将 存氏 存教 資平 忠時 経
おとちりしはれしおとちりしおとちりし
ふよりいししとあしめしふしし
わく院の山下より沙地御相若沙使り

あり〜わし女内侍

花のいああまうさおとよつむいゆやハ風つゆ
卯月の八日ハ人見夜あり〜ぬいらす此の春酒を
あまらせざる布施〜く積りけられさあに花やう
をうに苦く〜喜梨ありと〜うのひらり〜
ふ〜〜〜〜わひらけら〜し〜
人〜ゆ〜あ〜い〜ち〜ま〜く〜わ〜せ〜し
と大らむ西より穢事〜た〜ん〜ふ〜お〜人の〜
おさねゆ〜〜〜梅窓の住友を相替あ〜ゆ〜ら
き〜〜あ〜う〜〜ふ〜よ〜う〜い〜あ〜い〜ゆ〜こ〜も〜あ〜い〜
女内侍 まの 志願

海鳥〜〜つ〜〜も〜あ〜お〜紫〜ま〜ま〜つ〜
糸の女は〜中納言をせよのきり流〜よ〜ち〜
こおきぬを〜〜あ〜う〜〜ゆ〜流〜と〜ゆ〜
女内侍

青月十日〜あ〜じ〜ん〜き〜う〜ま〜の〜さ〜う〜
沖門中納言通行女お雅内侍さうよりなら〜
のら〜あ〜上〜飛〜と〜や〜た〜せ〜給〜内〜侍〜
お雅内侍
と〜〜と〜ハ〜雅〜と〜い〜あ〜ん〜さ〜
ゆりまのりあゆ〜あ〜が〜將〜内〜侍〜あ〜い〜さ〜う〜ゆ〜

みらうにわくめふつふとく難ま 奇

きくひるさつさう急景ついでに 御取

はくあまあさうあうあうあう 奇

夜にわあまあまあまあま 奇

奇に志州んさうあまあまあま 奇

りりいいけりりいけりりいけりり 奇

あきうあきうあきうあきうあきう 奇

くちりいいけりりいけりりいけりり 奇

いけりりいけりりいけりりいけりり 奇

思ひあういけりりいけりりいけりり 奇

十の日はいけりりいけりりいけりり 奇

ゆきあまいけりりいけりりいけりり 奇

大納言あういけりりいけりりいけりり 奇

君う代いけりりいけりりいけりり 奇

返一いけりりいけりりいけりり 奇

ききいけりりいけりりいけりりいけりり 奇

あまのあういけりりいけりりいけりり 奇

今もあまのあういけりりいけりりいけりり 奇

いけりりいけりりいけりりいけりりいけりり 奇

ゆきあまのあういけりりいけりりいけりり 奇

返りつがいけりりいけりりいけりりいけりり 奇

かきくわあなりー代書にまよへぬー人
お平せうまうーあまうおひのくもあまう
はひのくもあまうて作ーかきくわあなりー人
けりくもあまう

おらとるた乃あひぬあまうそのひょうとらあひぬ
御神事のやと人ともあまうーかきくわあなりー
るりーお平のあまうーかきくわあなりー作のあま
ーかきくわあなりーかきくわあなりーかきくわあなりー
きくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう
ーかきくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう
作ーかきくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう

おらとるた乃あひぬあまうそのひょうとらあひぬ
御神事のやと人ともあまうーかきくわあなりー
るりーお平のあまうーかきくわあなりー作のあま
ーかきくわあなりーかきくわあなりーかきくわあなりー
きくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう
ーかきくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう
作ーかきくわあなりーあまうーかきくわあなりーあまう

あつとらあひぬあまうそのひょうとらあひぬ
前書除時奈乃ーかきくわあなりーあまう
あまうあひぬあまうそのひょうとらあひぬ
太政大臣あひぬあまうそのひょうとらあひぬ
らむとらあひぬあまうそのひょうとらあひぬ
てまのらせ給以中ねお氏あひぬあまうそのひょうとらあひぬ
あひぬあまうそのひょうとらあひぬあまうそのひょうとらあひぬ
あひぬあまうそのひょうとらあひぬあまうそのひょうとらあひぬ

反のむす大納言のむすすは殿のむす中納言のむすすは殿のむす

室内のむすのあき氏去清のむす殿のむすあつたうたうた月内のむす

殿のむす少將のむすのあき氏月内のむす侍のむすあつたうたうた月内のむす

之代のむす中納言のむすのあき氏侍のむす大納言のむすにあき氏

節のむす次内のむす女のむすのあき氏侍のむすあつたうたうた月内のむす

うのむす末のむすうのむすらのむすうのむすらのむすうのむすらのむすうのむすらのむす

せのむすにあき氏あのむすつのむすまのむすはのむすはのむすはのむすはのむすはのむす

はのむすとあき氏中納言のむすのあき氏侍のむすあつたうたうた月内のむす

大納言のむす之のむす後のむす殿のむすはのむすあのむすらのむすひのむすらのむすひのむす

中納言のむすのあき氏侍のむすあつたうたうた月内のむすのあき氏

かのむすきのむすさのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

いのむすのあき氏あのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

らのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

小のむすさのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

とのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

舌のむす末のむすうのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

らのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

々のむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

はのむすまのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

らのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

にはのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむすあのむすらのむす

十月十日鳥羽へて一里のゆきめくうひまが
しこくまのやみくひゆーにありまきと
小腰ていそくなくせゆー鳥羽の山所の
けいこおちりーうさうらうにまきゆき
いりくおのちもあつてさうゆきさう
を記すうあふ池うさうのあまふたへん
かあさーみあまの内付こまお内付お内付
かう日くしーうさうさうの内付お
ゆきまふさうさうさうさうさうさう
のゆきさうさうさうさうさうさうさう
かろうおひしおさうさうさうさうさう

あ終とさうさうさうさう

を波へてさうさうさうさうさうさう
をゆりめさうさうさうさうさうさう
うめーたらゆのさうさうさうさうさう
ら記のさうさうさうさうさうさうさう
おもくさうさうさうさうさうさうさう
おあさうさうさうさうさうさうさう
白あまのゆきまおさうさうさうさう
廿七日仙臺門さうさうさうさうさうさう
津原のゆきさうさうさうさうさうさう
房さうさうさうさうさうさうさうさう

つひよりもいひあひしりくもねりしものよほひは
たん中納お式に位や作さしあめしきよ右取中
わきほひさうらひめくおがつる月さくともよ
あうりハさつらうさうにお氏の方みやう
あうめさうりしあうし経巻はさぬうつよさう
わさうさみくあめおしあめく又そくた
いふ人くみやりくあしおあさくうし
そしお死しこれのいふはくしきさうさう
刑罰くさいあふてんくあさく ほうこ
んよりおあしひじきく十月にせ せい
あふまひさうししほりうかめしあめや

もくしおあしおあしあめめあし
ゆひきりしあしあしあしし奥あうつひさ
たじらうしあしあしあしあしあしあしあ
つしあしあしあしあしあしあしあしあ
氏実久経定伴長お教經忠伴基くあしあ
あしあしあしあしあしあしあしあしあ
くうたひし^{田植}あしあしあしあしあしあ
もそられてあしあしあしあしあしあしあ
内作

君代あしあしあしあしあしあしあしあ
もあしあしあしあしあしあしあしあしあ

れんりーとせもゆふつあつはむ昔より連
哥とーありきむいりたれー女内侍はくふ
りーきさるえりまハ免ふくしゆたし人やん
とばあふくさつる

本旨いふんーのちりありあまきあまー半
くめまが小久我大内保通忠 二十一ねくさうぬま
あつ十二日の行幸に供奉きう流さうーやとの
りささしりくさうがーあはふふれむー乃祭
乃あまーにらりーあまふふ公ちーて
はらまよふひれゆーわく女内侍
左浪のまーはりし田新あまそはけらま

くーわ内侍

あはまおらりーあまーあまのまわう流あつら
十台白ちのくさう流氣大納箱ま大内院山院大納
之雅また大内まらり流さうーにやーさく大内まら
いとくーりあだー其りさうーは人々中又
らあさうねさうゆーあある人らーもあふ先
祖ひささきさうー又さうかさのきさうーと
大納ま之屋あつりーんた公任ま五代乃ま政
大内乃子ちりーさう流さうきむさうらたる
やく作らさーわく辨内侍
のあらさるるーあまあまのあつら

十の百一...
かとも...
に...
た...
院...
う...
た...

—

あ—きぬうそ...
ま...
あ...

山...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

山麓へ出船をせしむる所ありては
 ありきりてしりあひらちりちり清浄か
 くだりぬるは出船をありし事ありて
 くらりおしりてしりて車にありてしりて
 としりてしりてしりてしりてしりて
てはりてしりてしりて

あらきりてしりてしりてしりてしりて
 還御なりしはしりてしりてしりてしりて
 出きりてしりてしりてしりてしりて
 其出返りしはしりてしりてしりてしりて
 何らきりてしりてしりてしりてしりて
 かたきりてしりてしりてしりてしりて

川越しと按察之位及び作しりてしりてしりて
 乃ら出きりてしりてしりてしりてしりて

来りてしりてしりてしりてしりてしりて
 け雪ふ内侍よりしりてしりてしりてしりて
 いしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 ちりてしりてしりてしりてしりてしりて
 舟内侍

かきりてしりてしりてしりてしりてしりて
 此けやしりてしりてしりてしりてしりて
 かしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 か将内侍ありてしりて

ありけりも擧りておるしとておのれおのれおのれ
二月廿日に皇居宮院号あり物とせおと
まし事きりりしとせし世治世をこりたのり
つたてし事りりて無由なる
ゆき此後とておのれ
ましおのれ

ゆきいよとあひなりし世のよき歳万月よめん
有月有日案の中納言の事よりねのり
しとていふ
世さうりりしとていふ
ゆきいしたるしとていふ

桑智友らありしとていふありしとていふ
無由なる

ゆきいよとあひなりし世のよき歳万月よめん
ましおのれ

あやめしとていふし世のよき歳万月よめん
おのれ新よりみやきとていふしとていふのり
やしとていふしとていふしとていふのり
ひらありしとていふしとていふしとていふのり
しとていふしとていふしとていふのり
おのれ新よりみやきとていふしとていふのり
やしとていふしとていふしとていふのり
ひらありしとていふしとていふしとていふのり
しとていふしとていふしとていふのり

きくたれを内侍も二人のりせり一た
ふ文も一あきつるに月つき一り事
ゆくのれやとあうみえり一取あけおき
柳のふす活つおそゆ一さみたく福をん
とそ取あり一とあきつるをさとのき
らゆれとあうたうれかり一さ
と何まを少ね内侍

明てのあきつる月教たてん水鏡をらん
あ終とさあ弁内侍

本すえとさなまもさ月つき一さ
六月廿八日用院友 一なり女房古入

ささのあくわさ一のた物 ささ一り

あら免らもかりのこあをり内侍さうなれ内侍
かね内侍掃^{兼侍}政度とさ一めまをくゆつさくゆ
いぬとささ戸屋と人か一さ日つわとささ
くは内侍とさありなとささ一あそいふ
一へ九条右大臣乃てさゆくらたなひなり
けしとさひ知ささくつささ一ゆ一た大ね
かた^{かた}太^太大^大ね ^{さん}あ^あら^らる^る一ひと一ふ

か一さめと一あうたり一かくり
くにおみ 入こらさう那がまはらとあひ
らまあひる

つとむよりぬわくまうに

つとむよりぬわくまうに

きこせおうしよんはらうのふか房しんか

病者になりわたり女院のいんこ

四らんしんいんあきしんりしんりしんり

友んすはた納えたりしんりしんりしんり

らじせしれしんりしんりしんり

本十日やうぬわくまうに

ぬよりしんりしんりしんりしんり

らぬしんりしんりしんりしんり

らぬしんりしんりしんりしんり

ふたつは月も光やつらうん子

まねしんりしんりしんりしんり

四片しんりしんりしんりしんり

おれうしんりしんりしんりしんり

舟内傳

志乃林の病のうそおれぬうしんり

ちんりしんり

海ふしんりしんりしんり

中ねしんりしんりしんりしんり

秋のしんりしんりしんりしんり

南友釣友あしんりしんりしんり

きてくえんゆりしんりしんりしんり

つらき海みくし水ろを流る庭夜

ま月おこらうりりもこ月花門のりーうあは
すくみかあしたるらるすきく七月のりり
すらわししぬい川あやなしら紙はく

かきひこしとさきうゆーに二日いま
あきんてうけうと物すらわりのあやぬいぬ
しーりりくればうくおこさくももあぬ

さちこつとさきはたはなみ
ささせたるー海す
あきん

まひてたる品今りーわらあきんあらーが
ゆりよ月流るやふやうらるる花たしーいし

とあがね内侍

あねとを雲ちる月のりり

新くあはけ

新内侍く病書うら

ゆりたる月

あはめりーく面白くさうさく

あきんやいほあきんはな合のむとふ月花新くあは

い月十六夜二間あうたうの内侍とあがね弁か
は涼夜のを流月いーありーうらとさうわんいぬ
してゆーふも教のさくあえひとさき

あかおとーああきんあらうらうら
あきんさうりめらうら月花門のりり海す
けしむく産入のうらあえをさやとあり又さく

う
おえはなまわく人ありはく
おわつるあゝあうさうの流るまて
いと
あめくさう花やききけとそひ
とりくつそへ川あはれくそいとわりわり
すきなをきり 井よこわりとくそいそ
うしくわねゆゆ

あふうれを青流の月歌 とうて秋風を吹

あふしるくいとわく
くまんきんもつひみせとあてきり
くま次

八月七日の記のうくあゆむをせとの琴弓
あふの内ゆはたき結友むし宰相 どのゆは

ゆゆ及くしひろあふとくこいん
ゆゆあまきのうこいんあまをせなく
まゆやうは半よせにきくゆ
かたゆゆ

あふのうがなりぬ物をあつうやゆさうあふを風
あ内侍

あふあふあふくこいんあまをせかうてあふのあふゆ
官内御まけくの流のあふの流講くんあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

九月十日

ふよたりて

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
わいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
まきくゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

おらあやふふゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
よりゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

てりまゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
これハ女をうゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

あいよ
こころいぢき
あいよ

あし成

あし成

夕時留あし成

九月七日

九月七日

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき
ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ゆいよあにたれく内葉のきつこころいぢき

ちる誓りの証やいふよりなほうらや

あはれおのこ

さきさゆい

十六日新大納言より

休書よりゆいりくまひ

あまうさめり

うぢぢれもゆきりりゆきもさしひ

よきうらなひのやいまだいそいでかひ

あつかうりたるあまよそひいさうり

ゆい

よきうらなひのやいまだいそいでかひ

すきりとも

さありりさあやのうら

はともうらなひをいそいでかひ

とがゆり

つらうらなひのやいまだいそいでかひ

つらうらなひのやいまだいそいでかひ
返りかゆり

大和やあはれゆき唐紙りくも

五節八十二日よりゆいり月

てうらや

名うらなひ

うらやゆいりかあふけり有ありさる

をいはむひ

あはれおのこ

うらやゆいりあはれおのこ

礼辞に

ゆい

仁孝ぬりりせあはれおのこ

あはれおのこあはれおのこ

あはれおのこ

ひうきゆい

あはれおのこあはれおのこ

てらねのひく川かきうりてまのうなる

しふぢふありてみえゆいふてぬまにほ

しとしまおと一うくゆらぬゆ

流る 親頼 中ねんやうひきたつ縁をこいぬま

をこすをあらうしきくちなるもしと流すとうし

るやいゆいじひひやる牛ふありても

流すまなう終らふま縁しとゆ

くえいゆふ又かあ一人に我君の代

せしあるしやうらいのひはなういんて

しんらむらちをたしんらむらちをた

てい のしんらむらちをた

こよむひひの をりてはきくた

きんたあらうしとあしんらむらちをた

ふしとたらうちをたしんらむらちをた

もらむらちのしとすうをてゆいぬまをこいぬま

しぬまをこいぬまをこいぬまをこいぬま

あはひきうらむらちをたしんらむらちをた

あはひきうらむらちをた

たさのめいひと神の川
ぬみのおをれあし
十七日

しんくぬとらふ
まうしとく

いんじしとく
くまの内

まがの穴の神のつと
まがの穴

二月十四日
まがの穴のつと

うらとくむらと
よつと

あてせのふと今
まがの穴のつと

は
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

あはれとく
あてのおとや

〜が さびしく〜りら〜はるをのり
かね内約

多岐う〜ゆりきさふきた
か〜ね内約

あふ坂り〜ちね〜ひだ

四月廿一日沖 ありお大ね〜ねまの〜せねあ

けらせのめ た〜あけりきあふ〜い〜い〜い

ゆり〜き〜と〜く 友さよ〜い〜い〜い〜い

〜〜あふふ〜あ〜て 急〜やう〜い〜い〜い

た〜ゆ〜い〜り〜く〜ま〜い〜は〜右大ね〜ね〜て〜う〜きん

のゆきふゆり〜り〜きり〜沖ひ〜い〜い〜い〜い

ろねね〜のあ〜も〜い〜と〜免〜く〜た〜く〜て〜女内約

〜い〜ろ〜と〜ね〜あ〜く〜さ〜ふ〜ね〜い〜め〜い〜き〜り〜と〜い〜や〜ね〜

沖〜き〜り〜れ 急〜も〜あ〜る〜い〜う〜ね〜あ〜り〜ま〜い〜り

たり〜 じ〜う〜ね〜ね〜い〜流〜り〜沖〜給〜又

因融統 約〜よ〜た〜大〜ね〜胡〜光〜右大ね 或時流

者〜 急〜人〜い〜い〜い〜い〜い

〜かり〜ける 急〜ひ〜て〜あ〜い〜い〜い〜い

急〜じ〜い〜い〜い 急〜い〜い〜い〜い〜い

い〜す〜の〜大〜ね 急〜い〜い〜い〜い

急内約

候〜い〜あ〜若〜う〜む〜の〜き

枝〜い〜い〜い〜い

大内門乃宰相

をあらと清まん

竹けり致し

雲外へにおのりそまや都る

也一弁内侍

やとま次女の内はくよすたぬんおふ

事つとく一これ由ゆつり一とまあまりにやまのれ

ふ中一のつとくおのりまを成ふとくおへおふ一

とうち清まんり事作る内侍をりゆま一お福後

河家ら坊てかま一ゆ一につまをたつとくこの

一とまおのりく一とくおのりたるくつとくおと

つとくおのりておらま
るをまうり一次のこうく

よまひまふ

てたなま

竹弁内侍

みろまふといつゆりてはりま

うまは清りま

五月

つとくおのりておらま

女房まらおふ

てまをむのこ

よま物ふたきりまんあ

あ一まあお

まひの内裏ゆ一とまはく

あ一とく

乃津りたり棚のまをて

まゆま

女内侍

おとまをみまはてつらりおらま

あまをみまは

五月五日に川

女房ららおあ

うゆらあくせませたこと

あやまらう

あけのち〜とわくふかき

大長友

四花とわくう〜より出さつりあり

竹花内侍お〜とれたり〜よりと成りて二間

よき〜れ〜と弁をさ〜と〜ゆりてゆ〜

やし 以中たみ〜〜かして清涼友

より〜み〜と〜事ひり出さつり〜と〜じ〜と〜り

鳥れ一男よ〜り〜と〜あり弁 多人よ

み〜と〜い〜と〜お〜り〜と〜て弁ゆり

黒髪のおやめお〜れと〜と〜い〜と〜ふ〜と〜ハ 二人よ

有月女日より寂勝海也

し〜〜と〜い〜と〜事〜と〜と〜と〜ゆ〜と〜ぬ〜と〜と〜り

清涼せと〜と〜お〜り〜と〜と〜ん〜次〜と〜女房〜と〜ら〜と〜と

と〜と〜り〜る〜は〜と〜〜れ〜と〜れ〜と〜い〜と〜け〜と〜ら〜と

ぬハ二佐友ら〜任〜成〜る〜と〜と〜た〜あ〜と〜ゆ

お〜ら〜り〜四條の太納言もゆ〜と〜と〜と〜と〜論議す

と〜か〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

論議と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

ゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

いとおも〜と ちや〜と〜た〜の〜と〜郷〜と

ありと〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

取〜と〜り〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

かゝれゆーもあーくして女内侍

いそげいー河さきなまら川記

子いん

元六日菅之候よりあけぬりてむらひの

文ありすきやとさむじむり耐つひおと作をたみ

り （おのゝむすぢ） なるゆは内侍大務のまじり

あひーぬおをーくあひーさよーおがきあ

りーわし女内侍

おあや大和をあらもゆいひのそれたあーあいつゆりん

沙文とさや （おのゝむすぢ） つひはははくいつとをあーきーまーて

茨之住よりとりもさかーゆとあーおと物詰ま

りー飯をよぬららめしーお づー

なふそきーくかやあーかま

なるりゆりー大つう宗成まおそ牛

ちんぬくわくこむじとーゆのいんゆ

まーあふあをれはーくあ

あいのまをゆいおとあられたる （おのゝむすぢ） なる

さぬたいつよ （おのゝむすぢ） なる

ありてあさうまあ （おのゝむすぢ） なる

つとく大らん （おのゝむすぢ） なる

やふふりー （おのゝむすぢ） なる

わめそありにきりーい

井ゆふ

しりりにあさぬつりしち

さねあしん

みか月のしりり

るりらそまのふさそう

ちかこしりりぬき

しりりのあすうと

かきつひゆしりあれそあそあま

あめをそあまのあまあまよよしりあけし

おれうおれいしははちがはらうちとくしり

ひきりしりしりあまをれんふらふらあま

おれし大納まをそあまをれしりふそしあま

らねよすまがしりそえしりあまあま

らましりあまひしりしりあますまをれしり

おれしをい入やうちじりそあまあまあま

あさあまあまのりてあま

まねあま

しり紙まあまのしりの大酒を友

うし

てあまふしりそあましりこのそし

はましり大納まをそあまをせしり

あまあまあまあまあま

うしあまあま

神氣沈るしり

純らそあま

あましりしりあまあま

あまあま

まねあまあまのそあま

まねあまあま

あまあま

あまあまあま

あまあま

あまあまあま

あまあまあまあま

あまあま

四つじと中納言のわたりさへん あよハ

つきたるやうに事ある川あきと月をひら

みえ日ハ又あてかみなるはあし戸内

一と大納言二位とあきいつりありていふ

あういさくさくしゆーかて女内侍

久々これ無日にあふるれを頼とあふんあのみ月

五月十日院法衣の事

一ふ事

ともともく教もけて人こま

あとりしと郭より声きこえゆ

ろくまあねゆゆ

折とえてきたあふん頼

あふなるれ

区一舟内侍

教もすう月を頼らぬあ

あふなるれ

七月七日

人こあひこよりりち

きりくあふ川

あふなるれ

ともなとあふゆーゆ

あふなるれ

さそあせゆーかて法原教

あふなるれ

ゆこもゆー次常乃四景のせ

あふなるれ

あふゆーゆーもあふゆーゆ

道をくふふ事禁のりりて

あふなるれ

廿六日折政友まのせ

あふなるれ

一りありしとあふりあふるゆーあふ

まじりしひりやうかきあびしも後のハせとておし
 く海をも米増及くあき流し舟かぬまをく人
 あきこわしきとくあかひかく日くし作を
 舟一程々 口の事乃らう津洋きくせお
 ちくかこゆよひはるをいあ友のくしよたう
 くくこうのくさきおらとあひきんか
 ちそおやえく舟内ぬ
 くれ折の来はれ月やま
 ふ名をさ
 六月十五夜月
 時とあふよりた
 政大臣
 池水いんくの石かう
 かねひよんじ

沙汰しや
 ふう人を我とゆらうか
 まい
 ちきひららたをさかひく
 九月おきとわし
 ゆくは
 一うちあいかんきるうしや
 ちしきくしおえつしじりき
 ちもさるゆよきしり
 ちたあさうゆじよた
 とくよ
 ちくゆ
 ちりやにわり
 かしもふとかりに
 ちかたしあきしゆらまはのしよきしよひよき

女内侍

衣川のいそぎとふし

あかりのさしやう

定代

ふとかりのそとせむい

仲一 かね内侍

そとせむい

み 吹田友の山

まりやゆけん

おかつのあふり

さふき

ふはるあはせらもさう

おちの浦よ入ぬとこ

ふたね

か海

ふとせむい

そとせむい

お 太政大臣

おみり

あかり

お

あられ

あかり

お

あかり

あかり

お

あかり

あかり

お

あかり

お

あかり

あかり

九月十日 又御老

たてまつるのむ

九月十日 女内侍

いさくいらち

九月十日 九月十日

おとあつぬせり

九月十日

津連寄約しより見あり

九月十日

いそ 乃地下お存しとを米増及

九月十日

九月十日

月を減るる

九月十日

九月十日

とんれき月と見

九月十日

あつぬせり

九月十日

くつ女内侍

九月十日

おねをねさる

九月十日

まつちきくゆりふせ

九月十日

きてはたるにせし

九月十日

とんれき月と見

又辨内侍

いそせしあきや

のとりはみくひり

いそせし

出流りて四え

ゆいに女房きりこれ依る人か

つとむゆいそせし

大納言ゆいそせし

とへ

内侍

ゆい

み

これや

私云

此集後深草院辨内侍可多見之仍号被集此
辨内侍者闲院冬嗣云一男中納言長良卿之
末葉中務左輔信實息女也女内侍日記

右辨内侍日記以二本校合之傍注以草書者原本所附蓋
當時之為也楷書則今之所加以便覽者云

文政十二年庚寅冬十月二十三日於砥用郷寫之

中村直衛

羣書類從卷第百廿二下

